

令和4年度 県民と宮城県議会議員との意見交換会 報告書

■ 概要

1 実施日時

令和4年9月6日（火）午後1時30分から午後3時30分まで

2 場 所

宮城県議会庁舎 1階ラウンジ

3 参加者

- 一般参加者 14人
- 企画広報委員会委員 8人
(※このほか、議長、傍聴議員10人が参加)

4 日 程

1 オリエンテーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・13:20～（事務局）

- (1) 注意事項等説明
- (2) 日程（概要）説明

2 開会行事・・・・・・・・・・・・・・・・・・13:30～

- (1) 開 会
- (2) 企画広報委員長挨拶
- (3) 議長挨拶
- (4) 出席者紹介（副委員長：議長，企画広報委員）

3 意見交換・・・・・・・・・・・・・・・・・・13:40～

- (1) 事前説明（事務局）
 - ① 議会の広報・広聴活動について（5分程度）
 - ② ワールドカフェ方式について（5分程度）
- (2) 意見交換（80分程度）

テーマ「議会の広報・広聴活動を考える」

第1ラウンド	13:50～14:10	移動（休憩）	14:10～14:15
第2ラウンド	14:15～14:35	移動（休憩）	14:35～14:40
第3ラウンド	14:40～15:00		
まとめ	15:00～15:10		

4 閉会行事・・・・・・・・・・・・・・・・・・15:10～

- (1) 記念品贈呈（副委員長）
- (2) 副委員長挨拶
- (3) 記念撮影
- (4) 閉会 ※アンケート記入

《 解散 》 15:30

■ 意見交換

1 意見交換の概要

1階ラウンジにおいて、「議会の広報・広聴活動を考える」をテーマとし、参加者14人がワールドカフェ方式により、企画広報委員とともに意見交換を行った。

2 参加者の主な意見

(1) 広報の内容などについて

- ・ 広報を読んでもらうために、ポイントやフォントの工夫が必要。
- ・ 文字が多くてとっつきにくい。わかりにくい。興味が持てない。字を大きく文章を短く。(複数)
- ・ 今の記事風の広報では多くの県民が興味を示さないのでは。
- ・ 中学生くらいをターゲットにすれば大人でも読めるかもしれない。
- ・ ホームページを含め、情報の内容が専門的で難しい。
- ・ 用語解説も含めた説明も欲しい。
- ・ 何の話をしているのかテーマが見えない。
- ・ スマホで県議会だよりを見たがPDFが多く、ダウンロードするのが面倒。ダウンロードをすると保存量を使ううえ、一手間増えるのでダウンロードせずに見られるようにして欲しい。
- ・ もっと議員の人柄がわかるような発信の仕方を。各議員が自身のSNSで県議会の発信をするのも効果的ではないか。
- ・ 「コト」に意識を向けることも大事だが、それを行う「ヒト」に関心を持つような場づくりが興味を持つきっかけになる。
- ・ 投票率の低さなどからわかるように、県民が県議会や政治との距離を感じている。親しみを持ってお互いに近づく努力が大事になる。
- ・ 「政治の中2階」ともいべき県政についてもっと知ってもらうことが重要である。既存の新聞等の紙媒体で伝える際も中学生や政治に疎い人にわかるように砕けた表現や説明を付加することが有益である。

(2) SNSの活用や広報媒体について

- ・ SNS発信の強化。(複数)
- ・ 今はフェイスブックやツイッターではなくインスタ、ショートムービー(ストーリー)の活用。(複数)
- ・ ユーチューバーの活用。
- ・ 伝え方、目的、ターゲットの明確化。(複数)
- ・ 若者へのアプローチも重要だが、30代~50代くらいの関心がない層へのアプローチも考えなければいけない。
- ・ 紙媒体も大切。デジタルとうまく組み合わせて。
- ・ 自分で調べないととっかかりがない。
- ・ 一方通行になってしまっているのではないか。来てもらうではなく歩み寄れる方法を考える。
- ・ 入り口を改善しないと見てもらうことすらできないので、堅苦しさをなくして欲しいと感じた。
- ・ 若者から高齢者、女性男性、障害のあるなしに関わらず、同じように情

報に触れる機会を作ることが大切。様々な媒体から様々な方法を模索して発信する必要がある。

- ・ 村井知事は全国的にも知名度があるため、国会の党首討論のように、会派の代表者と知事との比較的短時間の討論をすればSNS等とも親和性があるのでは。

(3) 障害者等への配慮

- ・ 障害者にも議会活動の様子を伝える工夫が必要。
- ・ 議会中継に字幕をつけるなど障害者や高齢者に優しい発信をするべき。(複数)
- ・ 点字の対応。

(4) 若年層への対応, 教育機関との連携

- ・ 学生達など若い方々とのコラボを行うのはどうか。(複数)
- ・ SNSの運用を学生と一緒にやってみるのはどうか。
- ・ 議会と大学での連携は有用であるが「対大学」とすると手続きが面倒であると考えられるので、サークル単位で連携するなどした方が良いと考えられる。県警では大学サークルと連携して防犯啓発活動などを行っているものも多い。なるべく小さな単位で行っていくことが良い。
- ・ 9月以降、学生に政治について興味を持ってもらえるためのサークル団体を学内で立ち上げる予定のため、広報業務も県議会とSNS運用などと一緒にできるのではないかと思った。
- ・ 若い人達のニーズを知ることが必要。(複数)
- ・ 子ども議会の開催。(複数)
- ・ 高校等に議員が出向いてはどうか。
- ・ 10代から議会(政治)に関心を持つような子ども議会等が必要。
- ・ 各大学との意見交換会。アンケート。
- ・ 広報物を読まない世代が若い世代にはいる。
- ・ 小・中学生の授業に取り入れる教育。(複数)
- ・ 子ども達には絵本, 漫画, アニメ動画などでわかりやすく。(複数)
- ・ 子どものうちから政治について話せる環境が必要だと感じた。
- ・ 保育系の大学と連携し, 子ども達にどうしたら伝わるか考えたり, 作品を作ることで, 学生も子ども達も政治や議会について理解が深まるのではないか。
- ・ 教育に政治が入ることがなぜいけないのか疑問。公平性が大事というが多くの人が政治に関心がないのに公平性というものがそもそもあるとは思えない。興味, 関心があつてこそ公平性というものが必要になってくるのだと思う。教育は興味関心の無い人に1番効果のある手段である。

(5) 広聴活動について

- ・ 議会に県民が参加(フリースピーチ)。
- ・ 議会モニター制度。
- ・ ユーチューブのコメント欄などを活用して意見を取り入れる。

- ・ 昔は皆選挙に行ったので支持者の話を聞けば民意を反映できたが、今は半分も選挙に行かない。議会が民意を反映させるには広聴を大事にしないとイケないと思う。
- ・ 傍聴や意見書が出せることをこの会に参加するにあたって調べ初めて知ったが、出して良いか躊躇してしまった。県民の意見を取り入れる機会を増やすこと、取り入れやすくすることを大切に、意見を取り入れることでより議会が県民に身近になるよう頑張ってもらいたい。

(6) その他

- ・ 定例会の予定をもっと早めに知らせて欲しい。
- ・ 広報活動は選挙近くに。タイムリーに。
- ・ 議会の勉強や選挙の時に広報に力を入れる。
- ・ 情報発信のツールが多様化する中で、利用方法も進化し、難しい状況であると再確認できた。
- ・ 学生に限らず大人の方々も広報の新聞記事の活用など課題があると共通認識があることがわかった。
- ・ 意見交換会の様子も動画で紹介されていると、安心して応募できる。
- ・ 応募する際、議会広報への意見が必須だったので少しためらった。「意見なくても是非御参加ください」など、気軽さを重視して欲しい。

